

# 「柏崎の水」

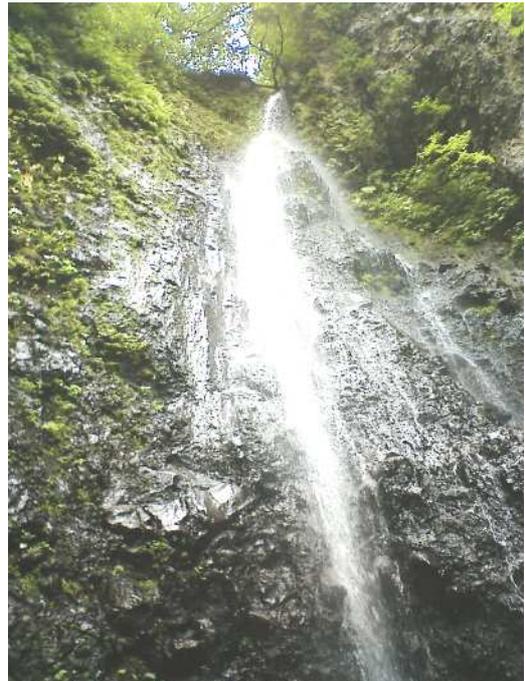
## 善根 不動滝 その1

八石山にはいくつかの滝があるが、その中で最大のものが善根の不動滝である。滝の落差は約72m、落水幅は1～8mであり、全体で3段になっている。前方から眺められるのは3段目のみだが、滝が流れ落ちる風景の壮観さは「銀河ノ九天ヨリ落下スルニ似タリ」などと記されるほどである。また、滝の流れを左右に分ける岩の形が、右手に利剣・左手に縛縄を握っている不動明王に見えるといわれる。しかし不思議なことに、人が多くて騒がしいと急に水量が多くなり、その姿は見えなくなってしまうという。なお、江戸時代の後期に学塾三余堂を開いた藍澤南城も次のような詩を詠んでいる。

瀑布巖高多石瘤 跳珠乱打百群頭

疑是明王奇幻戲 化身千億沐飛流

古くから名瀑として近郷に知られた不動滝だが、夏場は特に見物人が多かった。滝の水しぶきがひんやりとして涼しく、気持ちよくて帰るのを忘れてしまうほどだ、と「中鯖石村誌」に書かれているとおり、この場所は避暑地として賑い、初夏の滝開きの日には、近隣の子も達はもちろん、遠くは柏崎町からも多くの人が集まった。大正時代には滝壺付近が八石公園として整備され、「養老亭」「傘亭」といった茶屋がでていたという。戦後しばらくすると茶屋が建つこともなくなり、この滝を訪れる人も少なくなったが、茶屋名物の身欠きニシンや車麩の煮付け、トコロテンなどは当時を知る人々の記憶に今も残っている。



善根の不動滝



参考にした本

「中鯖石村誌」中鯖石村 編(224 冊)

「八石」中鯖石コミュニティ振興協議会 編(050 冊)

「刈羽郡と名士」三井田源七 編(282 ミ)

「越後名寄」丸山元純 著(290 冊)

「郷土誌 大正・昭和・平成の中鯖石」

中鯖石郷土誌編纂会 編(224 冊)